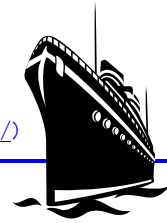


MSI Marine News

トピックス

海上保険の総合情報サイト **MARINE@vi** もぜひ、ご覧ください。 (http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

タイにおける洪水対策の現状

間もなく、2011年のタイ洪水から1年を迎えます。この洪水では、タイ中部平原の南北約400km、東西約300kmに及ぶ広大な地域が浸水し、アユタヤからバンコク北部にかけての地域も水に浸かったため、合計7カ所の工業団地に入居する800社以上の企業が被災しました。今年の雨季の降雨量がピークを迎えるにあたり、洪水対策の現状について、以下のとおり纏めました。

1. 2011年の洪水の原因

昨年の洪水の直接の原因については、各工業団地における防水対策が十分ではなかったことが挙げられます。タイの工業団地では、防水壁のような洪水対策はなされておらず、水が迫ってから急遽土塀を設置したり、土嚢を積んで浸水を防ごうとしましたが、外側の水圧に耐えられずそれらが決壊し、もしくは水位がそれらを越えて、団地内部が冠水してしまったというのが昨年の洪水被害の状況です。

この直接の原因に加えて、政府の総合的な治水対策の遅れやダム・水門の開放といった人的な要素、気象観測システムが老朽化して正確な降雨予測ができなかったことなども原因として挙げられています。

2. タイ政府による対策

これらの原因を踏まえて、タイ政府は、洪水対策の単一指揮機関として「SCWRM (Strategic Committee for Water Resources Management)」を立ち上げ、洪水からの復興および再発防止に向けた取組みを検討、実行しています。SCWRMが策定した洪水対策は、以下のようなものです。

1) 短期的な対策

- ・工業団地における輪中堤および防水壁の設置
- ・チャオプラヤ川下流域の浚渫
- ・洪水対策としてのダムの役割の位置づけの変更(従来、ダムは農業用の灌漑施設としてとらえられていた)

2) 中期的な対策

- ・予報と警報システムの高度化
- ・道路の高架化

3) 長期的な対策

- ・ダム・貯水池の新設



ロジャーナ工業団地で建設中の輪中堤と防水壁
(建設開始当時、構造がよくわかる状態で撮影)

3. 工業団地における輪中堤および防水壁の設置状況

上記の各対策のなかで、今年効果が期待されるのが工業団地を取り囲む輪中堤と防水壁です。輪中堤は団地の造成面から2.5mの高さまで幅5m程度の盛土を行ったものです。また、防水壁は長さ10mのプレキャストコンクリートの板を輪中堤に埋め込んで設置しており、団地の造成面から4mの高さまでの浸水に耐えられる構造になっています。現在も各工業団地で設置工事が続いており、昨年被災した主要な工業団地における工事の完了率は次のようになっています(いずれも9月第1週時点での進捗率)。

ロジャーナ: 96.0% バンパイン: 75.4% ナワナコン: 96.9%
 ハイテック: 89.6% バンカディ: 82.7%

今年の雨季の降雨量は、昨年と比べると少ないものの、平年比では多くなっており、注意が必要です。昨年の大洪水の引き金となったダムの貯水率は概ね60%~80%と、まだ余裕がある状態です。一方で、9月28日には、バンコク東部ラッカバン工業団地周辺の運河が氾濫して周辺道路が冠水するなど、今後の降雨量によっては予断を許さない状況にあります。昨年の災害の教訓とそこから得た対策の有効性が試されることを迎えているといえます。

以上